

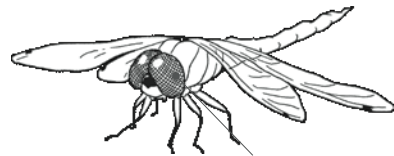
2022年11月18日発表！

「科学道100冊2022」に選ばれました！

科学道100冊2022…日本で唯一の自然科学の総合研究所である理化学研究所（理研）と、本の可能性を追求する編集工学研究所による科学道100冊プロジェクト。書籍を通じて、科学者の生き方や考え方、科学のおもしろさや素晴らしさを届けることを目指し、毎年選りすぐりの100冊を紹介。11月19日から順次、全国の公共図書館、教育機関、一部大型書店などで、「科学道100冊2022」のフェアを展開中。

脳をもたないクラゲ、
真つ暗な深海を漂うダイオウイカ、
首を頻繁に動かすフクロウ、
ごみ袋を透視するカラス、
岩に固着すると視力を失うフジツボ、
彼らはどのようなものを見ていっ

見える世界はこんなに違う！



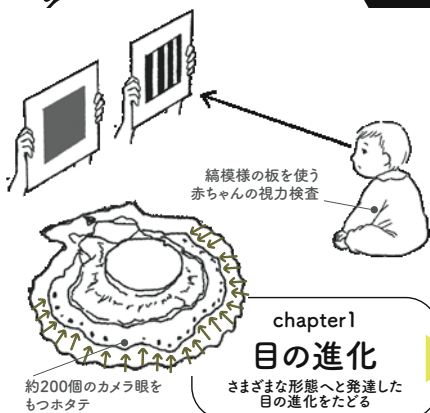
約2万個の個眼がびっしりと並んでいるトンボの目



馬に白黒の縞模様のコートを着せると、アブがとまる回数が減少する

ダーウィンを困らせた「目の進化」から、
動物たちの「見る・見られる」の熾烈な攻防戦、
蛍光色や輪郭線が目立って見える「視覚の不思議」まで、
“目から鱗”のトピックが凝縮。

心理学、光学、工学の横断領域にあたる「視覚心理学」を研究する著者が、
光や色の特性、目の仕組み、さらには世界中の動物たちの目の構造や特性についても調べ、
「これは面白い!」と思った話題を掻き集めた、知的好奇心をくすぐる一冊。



縞模様の板を使う
赤ちゃんの視力検査

約200個のカメラ眼を
もつホタテ

chapter1
目の進化

さまざまな形態へと発達した
目の進化をたどる

chapter2
見る・見られる

生き残るために身につけた
視覚を生かした生存戦略とは

chapter3
見えない世界

人が見える「可視光」以外の
光を見る動物たちの世界を覗く

chapter4
どこまで見える?

眩しさや色数など
「見える範囲」を比べてみよう!

chapter5
感じる光

「ものを見る」以外の
光が身体に与える影響を考える

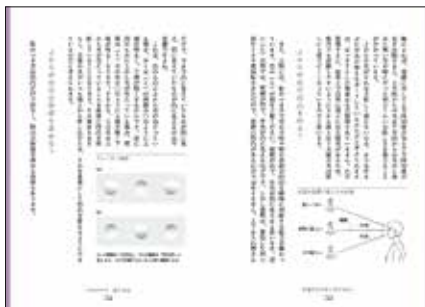


「奇想天外な目と光のはなし」

著：入倉隆 定価：1800円＋税 仕様：四六判、並製、216p、2C
ISBN:978-4-8441-3784-9 C0045

ご希望の方は
〇で囲んでください

POP



著者プロフィール

入倉 隆 (いりくら たかし)

芝浦工業大学教授。1956年(昭和31年)香川県生まれ。1979年早稲田大学理工学部電気工学科卒業。運輸省交通安全公害研究所などを経て、2004年より現職。博士(工学)。元照明学会副会長。専門は、視覚心理、照明環境。主な著書に、『脳にきく色 身体にきく色』(日本経済新聞出版社)、『視覚と照明』(裳華房)、『照明ハンドブック 第3版』(オーム社)などがある。

補充注文

帳合・貴店名

ご担当者名

冊